



大浦だより

令和6年5月31日発行
舞鶴市立大浦小学校

教育目標「希望に燃えて
心やさしく、人を大切にする子
自分を表現し、相手を大切にする子

伸びゆかん」
自分の考えをもち、共に学び合う子
ふるさとを愛し、誇りに思う子

〒625-0133 舞鶴市字平 1583 番地
TEL (0773)-68-0002
FAX (0773)-68-0007
HP <https://oura-maizuru.edumap.jp/>



体験から得るもの ～遠回りのススメ～



山椒（サンショウ）の実がたわわに実り、収穫をすると清々しい風に乗って野山にさわやかな香りが広がる季節となりました。

2019年に全国の児童・生徒1人に1台のタブレット端末が配備されるGIGAスクール構想が始まりました。本校では、調べる、考えを整理する、まとめる等、様々な場面で個別最適な学びを目指してタブレット端末等、ICT機器の効果的な活用を進めているところです。

その一方で、学校では昔から変わることなく体験活動が重視されています。5月21日（火）には、校区の室牛にてアーティストの皆さんや地区の皆さんと一緒に4・5・6年生23人が田植え体験をしました。皆が横一列に並び、1人1人が苗を持って皆で息を合わせながら等間隔に手で植えていきました。現在は機械植えが主流になっていますが、あえて手植えをすることの意味は何で



しょう。手植えをするには人とコミュニケーションをとり、助け合うことが必要になります。「苗がなくなりました。こちらをお願いします。」「そろそろ次の列に行きましょう。」「あと3m、がんばって。」など、意思の疎通をしながら協力して植えていきます。また、昔は手植えだけの時代もありました。当時の人々が、お米をつくるのにどれだけの時間と労力がかかったかということに改めて気付かされます。

私たちの身の回りは「便利」な道具であふれていると言われます。しかし「便利さ」にどっぷりと身を委ねるのではなく、あえて遠回りをして体験することで、知識や思考を働かせながら感動したり、驚いたり、「なぜ、どうして」と考えを深めたりする機会が増えます。そのような体験活動を通じて得た学びや気づきは、その後の学習の土台となります。学習の土台は富士山の裾野のように、広ければ広いほど知識や社会性



といった頂上（学力）が高くなる傾向にあります。

これからも大浦未来学を中心として、体験活動を進めていきます。「なぜだろう」「どうしてだろう」「やってみたいなあ」という身近な問いやわくわく感から様々な体験活動に取り組み、探究活動を通して生きる力を育んでいきます。これからも地域・保護者の皆様とともに教育活動を充実させていきたいと思ひます。御理解と御協力をどうぞよろしくお願いいたします。

校長 鎌野 高信 教職員一同

○本校教育活動の広報発信の一つとして、学校ホームページを随時更新いたします。
右記のQRコードからも開くことができます。ぜひ御覧ください。

